

会 議 録

会議の名称		平成30年度 つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時		平成31年 3 月12日（火） 開会13:00 閉会15:00
開催場所		つくば市役所 5階庁議室
事務局（担当課）		政策イノベーション部企画経営課
出席者	委員	・ 一般社団法人つくば観光コンベンション協会 副会長 市川 一隆 ・ つくば市工業団地企業連絡協議会 会長 森 博徳 ・ つくば市農業委員会 会長 高谷 榮司 ・ つくば市谷田部農業協同組合 総務部長 糸賀 俊宏 ・ 株式会社エデュケーションデザインラボ 代表取締役 平塚 知真子 ・ 国立大学法人筑波技術大学 産業技術学部総合デザイン学科 教授 生田目 美紀 ・ 国立大学法人筑波大学 副学長 BENTON Caroline Fern ・ つくば市福祉団体等連絡協議会 会長 後藤 真紀 ・ つくば市ボランティア連絡協議会 代表世話人 星埜 祥子 ・ 特定非営利活動法人ままとーん 理事 中井 聖 ・ つくばイノベーションアリーナナノテクノロジー拠点 運営最高会議議長 住川 雅晴 ・ 一般財団法人つくば市国際交流協会 理事長 小玉 喜三郎 ・ 公益財団法人つくば文化振興財団 常務理事 宇津野 茂樹 ・ 株式会社常陽銀行 研究学園都市支店長 渡邊 仁 ・ 株式会社筑波銀行 地域振興部長 沼田 数人 ・ 茨城県社会保険労務士会 副会長 藤原 歳郎 ・ つくば市シルバー人材センター 副理事長 蛭田 遼 ・ 日本労働組合総連合会茨城県連合会 カスミグループ労働組合連合会 事務局長 奥谷 崇 ・ 株式会社茨城新聞社 土浦・つくば支社長 菊池 克幸 ・ 一般財団法人研究学園都市コミュニティケーブルサービス 理事兼業務部長 小山 幹治 ・ 日本放送協会水戸放送局 局長 中原 常雄 ・ 筑波大学全学学類・専門学群代表者会議 瀬邊 風馬

		・筑波地区区会連合会 会長 木澤 寛伸 ・豊里地区区会連合会 会長 坂本 義治 ・桜地区区会連合会 会長 一色 喜美子 ・谷田部地区区会連合会 会長 木村 眞一 ・荃崎地区区会連合会 会長 小原 正彦 ・つくば市議会 議長 神谷 大蔵 計 28名
	その他	オブザーバー つくば市副市長 毛塚 幹人
	事務局	神部政策イノベーション部長、 片野政策イノベーション部 次長、 大越企画経営課長、課員 4 名、各部の次長・企画監等
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開 傍聴者数 2 名
会議次第	【全体会議】 1 開会 2 議事 （１）平成30年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について （２）地方創生推進交付金事業の進捗状況について （３）平成31年度に実施を予定する地方創生関連事業について （４）平成31年度における実績評価及び会議の進め方について （５）その他 3 閉会	

1 開会

○政策イノベーション部 次長

それでは、定刻となりましたので、平成30年度つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、24名（最終的に出席者は28名）の委員の皆様に御出席をいただいております。

私は本日の進行を担当いたします、政策イノベーション部の片野と申します。よろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、市長の五十嵐より御挨拶を申し上げます。

○市長

皆様、こんにちは。今日もお忙しいところお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

恐らくこの庁議室で開催する会議の中でも最大の委員数ではないかと思いますが、こうしてつくば市を代表される皆様に御出席をいただいて、市の政策を議論していただいているということは、非常に価値があると思っています。審議会というのは、どうしてもアリバイづくりであったり、何となくやって、やったことにしようみたいなものが多いのですが、もうつくば市ではそういうことをやっておりません。本質的な議論をして、何が今必要なのかということをちゃんと考えていこうということで、市民委員の皆様を含め、有識者、専門家の皆様という組み合わせの中で議論をいただいています。

この、「まち・ひと・しごと創生有識者会議」は、大きく言えば、「人口動態についてどう捉えて、それに対して何をしていくか」ということであります。

思い返すと、今から10年以上前に日本とドイツの若手の経営者や政治家、学者が集まる会議に呼ばれて行ったのですが、そのときのテーマが「人口動態の変化」、これは「デモグラフィック・チェンジ」という言葉を使いますが、人口動態をどう捉えていくか、それは実は非常に長いスパンで考えなくてはいけないものです。

当時の日本の施策というのは、「今、目の前にあるこの問題をどうするか」ということにフォーカスをされることが非常に多かった中で、これまでの人口の動きを見て、そして、この先の人口の動きを見た上で世界のリーダーたちと政策を議論するというのは、非常に新鮮な経験であったとともに、やはりこういう目線こそが 필요한のだろうなということを改めて感じたのが、もう十数年前のことです。

今、もはやそういうことは当たり前になっていまして、長い目と中期的な目、そして、目の前にある短期的な目とをきちんと使い分けなくては、政策というのはピンぼけになってしまうと思っています。

今回の総合戦略の評価は4年度目ということですので、5分の4であります。

5年というのは恐らく短期と中期の間ぐらいなのかなと思いますけれども、一つの区切りとして、今回は取組状況を評価、検証していただきますが、ぜひここでの皆様の議論や御発言というのは、本当に大きなヒントになりますし、私も会議録は全て読んでおりますけれども、やはりこれだけ多くの皆様が集まていただく視点というのは、なかなか庁内では出てこない視点が本当に多くありますので、現場に則した声であったり、皆様それぞれの御専門に則した声であったり、そういったものを闊達に議論いただいて、遠慮せずに厳しい御意見も含めて、さまざまな、歯に衣着せぬ形で御発言をお願いできればと思います。長時間になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございます。

2 出席者紹介

○政策イノベーション部 次長

続きまして、今年度より新たに委員に御就任いただいた方がいらっしゃいますので、御紹介させていただきます。

※出席者の紹介

それでは、早速、議事に入りますが、本来であれば、ここから設置要綱に基づきまして、小玉座長に議事をお願いしたいところですが、現在のところ、出席の予定ではありますけれども、遅れている状況でございます。

副座長であります筑波学院大学の方も本日は欠席となっているところから、それまでの間、つくば市副市長の毛塚のほうで進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、毛塚副市長、よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 平成30年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

○毛塚副市長

それでは、冒頭のみ代理で務めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本会議は昨年3月の平成29年度第3回の開催以来となります。今回は平成30年度に実施したまち・ひと・しごと創生事業の進捗状況等を御確認いただき、評価、検証を行っていただきたいと思います。

それでは、議事に入ってまいります。次第に従って進めます。

議事の一つ目といたしまして、(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、事務局から御説明をお願いします。

○事務局 (資料1-1から1-9の概要を説明)

○座長

遅れてしまいまして、大変失礼いたしました。ここから座長を務めさせていただきます。ありがとうございました。

まず、委員から事前に意見と質問等があったものですが、それについて担当の各部から回答をお願いしたいと思います。

○事務局

それでは、No. 1から御説明いたします。御意見をまずはありがとうございます。こちらはおっしゃるように、とったアクションが効果にどのように反映したかを定量解析するのが難しいところでございますが、その部分は、まち・ひと・しごととも4年回している中で、個別施策のほうが数値目標にどれだけ直接効いているのかという部分からも、確かに問題点の一つだと感じております。

こちらにつきましては、今日の議事の最後のほうで改めて御説明になりますけれども、今後の次期総合戦略の策定に当たりまして、その指標設定のあり方であるとか、その部分について議論してまいりたいと思いますので、引き続き

議論させていただきたく考えております。

1については以上でございます。

○座長

これについては、質疑、御意見等は後ほどまとめてお願いしたいと思います。
次に、2と3につきましては、担当の経済部のほうから質問内容と回答をお願いいたします。

○経済部 次長

資料1－5の①－2です。2の①の効果発現要因ということですが、創業支援ネットワークの中にコワーキングスペースの事業者を入れたということで、大学、研究所、各ベンチャーについては、事業所を構えるということ、場の確保が大変重要になってきます。そういった意味でコワーキングスペースの運営事業者を入れて、支援できるようにしたことと、あとはスタートアップも昨年から本格的に始動しましたので、そういった事業の効果もありまして、創業希望者のニーズに対応できたと思っております。

あとは、ネットワーク全体における市の役割についてですが、こちらの方は資料にはないのですが、創業支援ネットワーク、創業支援というのが構成されていまして、この中で特別支援事業を行うのが研究支援センター、筑波大学、産総研、そして、つくば市商工会という形になっております。そういったネットワーク関係で、創業者には国のほうで四つの制度がありまして、登録免許税の軽減とか融資関係の資金の無担保保証とか、そういった四つの制度がありますので、そういった意味で創業支援、事業計画、セミナースクールを受けて創業した方に、こういう支援制度を活用していただくために、許認可証を市が出して、創業支援の窓口をやっております。

あとは全体ネットワーク会議という形で市のスタートアップ関連、創業関係の支援制度の紹介を行っております。

以上が2の①のお答えになります。

3の②ですが、その事業に関連しまして、支援ネットワークの機関の

増加を目指すというところですが、現在のところ、特につくば駅周辺の中心市街地、そういったところに事業所を構えたいという希望が創業者のほうから多いので、そういった場所を確保できるような形でコワーキングスペースとか、民間の不動産業者のほうが入ればいいかなと思っております。

金融機関については、県のベンチャーキャピタルの窓口をやっていただいています筑波銀行さんなども入っていただければなという形で考えております。

○座長

ありがとうございました。それでは、続けて4と5、東京圏からつくば市への年間移転者数の増加につきまして、二つ御質問がありますので、これは市長公室のほうから御説明をお願いいたします。

○市長公室 次長

まず、4の質問につきましては、資料1－5の①－5というシートになります。転入者の動向などのデータにつきまして、把握しているのかという御質問でございます。その把握につきましては、市内の沿線開発地区につきましては、都道府県ベースで年代別の転入者の属性は把握しております。

また、TX沿線のほかの市につきましては、動向は把握してございません。ただ、市内のデータにつきましては、物件的な収集とか、他の自治体につきましては協力を得られれば、照会してデータを収集することが可能だと思いますので、今後、移住、定住施策の課題の抽出とか、また、企画立案に必要なデータの収集を検討していきたいと考えております。

次の質問も同じ①－5に関するものです。興味を持っていただいた方への具体的なアプローチということでございますけれども、今年度、移住、定住施策につきましては、これまで幾つかの部局で進めていた施策を統合するとともに、まちづくりアドバイザーに就任していただきまして、広報戦略課で一元化して施策を進めることになりました。

それに伴いまして、改めて移住、定住施策の見直しを行いまして、ここで書いてあります特定の方への具体的なアプローチということになりますと、数に

限定がどうしてもされてしまいますので、これからはもっと広い関係人口創出というものを目指した取組を実施するということで、今年度は進めさせていただいております。

なお、これまで実施してきました移住、定住事業につきまして、どのぐらいの実際の効果があったのかという検証の御指摘につきましては、実際は行っていないという状況がございますので、来年度、転入者の世帯向けのアンケート調査を実施しまして、事業の分析をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、6番目の御質問です。これは同じ資料1－5の①－6のシートになります。魅力的な就職先の確保について連携をしているかという内容の御質問でございますけれども、この資料にありますように、つくば市では18歳の人口が増加しまして、23歳の人口が減少しているということから、市内の大学生にとって魅力的な就職先が少ないということが課題になっていると考えられます。

そのような中、魅力ある就職先の確保につきましては、若者定住支援事業という広域事業の枠組みの中で産業振興課の主催セミナーに広報戦略課職員がつくばの魅力を発信する内容で講演を行うなど、他の部署との関係を図っております。なお、それまで企画経営課や沿線開発整備室で行っていた移住、定住施策については、今年度から広報戦略課が引き継いでいるという状況になっております。

○座長

ありがとうございました。それでは、続けて行いたいと思いますが、7番目に子育て環境の整備に関しまして、この次の8番目も含めまして、担当のほうから御説明をお願いします。

○保健福祉部 次長

御質問のございました、資料1－7、②－9、②－10につきまして、続けて回答させていただきます。

最初に、子育て環境の整備、バースセンターに関する御質問でございます。
つくば市バースセンターの増床工事につきましては、筑波大学附属病院の諸般の事情により、現在、未着工の状況ではございますが、完成に向けて準備を進めているとのことでございます。

病院の担当者によりますと、バースセンターの増床工事につきましては増床予定場所の病棟B棟の耐震化工事と同時に進める予定であるということです。耐震化工事の開始予定は早くとも2020年の4月であり、工事完了は2023年10月を現在のところ、予定をしておるところでございます。その際にはバースセンターを6床増床しまして、合計12床にする予定でございます。

続きまして、すべての世代の健康づくりと高齢者介護の予防事業の推進についてでございますが、こちらにつきましては、教室に参加している方、参加していない方、そして、茨城県全体、つくば市全体、つくば市、茨城県は国民健康保険と後期高齢者医療保険加入者でございますが、いずれの医療費につきましても右肩上がりの傾向を示しておる状況でございます。細かい数値等は今現在、申し上げますと長くなりますので、割愛させていただきます。

こちらの運動教室には身体健康面で比較的問題のない方が参加しておりますが、参加者のほとんどが65歳以上の高齢者ということもございまして、設定した目標値とは大分乖離した結果となっているところでございます。

そういった状況ではございますが、参加者1人当たりの医療費は参加していない方よりもはるかに低く、また、年度間の医療費の伸び方も比較的緩やかであるということから、運動を継続して行うことは、医療費を削減することはできませんでしたが、医療費の高騰の抑制には有効であることが確認できたところでございます。

しかしながら、国保及び後期高齢者医療保険の医療費が全国的に増加傾向にある昨今の状況をかんがみますと、短期間に医療費を3パーセント削減するという目標設定はいささか無理があったのかもしれないと思っているところでございます。今後につきましては、引き続き医療費の削減に向けて、より効果的な企画、実施に努めつつ、健康寿命の延伸に着目した事業を推進し、人工透析の主な原疾患である糖尿病性腎症の重症化予防や要介護状態になることへの予

防などに関する事業に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

○座長

ありがとうございました。それでは、9番と10番「災害に強いまちづくりの推進と地域コミュニティの活性化と市民協働の推進」について、これは市長公室と市民部、続けて御説明をお願いします。

○市長公室 次長

災害に強いまちづくりの推進ということで、資料1－7の②－44のシートになります。家庭で備蓄を行っている人の割合向上のための推進の取組についてという御質問の趣旨でございますが、平成30年度につきましては、備蓄品の有効活用と家庭における備蓄の啓発を兼ねまして、市の備蓄品のうち、賞味期限が概ね1年を切った食料備蓄品を市内の小中学校を通じて、各家庭に配布いたしました。

これは市の備蓄品がどのようなものであるかということを知っていただくとともに、備蓄の重要性についてお知らせすることを目的として、実施したものでございます。

今後も引き続き、出前講座、学校防災会議、防災イベント、防災支援のネットワークなどを通じまして、常に一定量の食料や日用品を家庭に備蓄しておく、いわゆるローリングストック法と言いますが、そのような方法を推奨することで、家庭における備蓄を推進していきたいと考えております。

○市民部 次長

資料1－7の②－50、区会加入率というところを御覧ください。行政の取組等情報提供のみならず、市民との協働の取組の推進など、行政運営等において区会の果たす役割、区会の力というものは大きいと考えておりまして、資料の成果欄に記載されている事業のほか、現在、転入者への区会加入促進のためのチラシ配布や区会設立希望者への設立手引きの配布、フェイスブック等での区会活動の紹介や区会加入に向けた啓発活動、区会設立のための出前講座、マンションや戸建て住宅が立地する主にTX周辺地域の管理組合に出向いての区会

の必要性や区会運営等の説明など、さまざまな活動を実施しております。しかしながら、いかんせん市への転入者も多く、戸数も増えておりまして、なかなか加入率が上がらない状況にあります。

委員がおっしゃる地区相談センターの業務についてですけれども、現状、地域からの相談、要望を伺い、担当部署につなぎ、課題解決を図っていくことが主な業務になっています。また、時には、地区の区長さんや民生委員さん宅を訪問したり、地区の集会やイベント等に赴いたりして、地域課題の把握等に努めているところでございます。

ただ、一般的になかなか要望など出しづらいと思われる、区会のない地域等に積極的に出向き、意見等を伺うことも一層重要であると認識しておりますので、委員がおっしゃるとおり、職員と業務内容を検討し連携を図って、区会加入や区会設立のための活動を促進していこうと考えております。

さらに、地区相談センターだけではなくて、自治体が、福祉や防災、学校教育などの取組を地域と一体となって推進するときなど、区会の果たす役割、区会の力というものは計り知れないと思っていますので、そういった意味からも保健福祉部であるとか、教育局、都市計画部、社会福祉協議会などの関係部署等の多くの職員の方の知恵や力を借り、連携して区会加入や区会設立のための促進活動を展開していこうと考えています。

○座長

ありがとうございました。それでは、ここからは委員の皆さんから御質問等をお願いいたします。できるだけ出席いただいております担当課から御説明いただきたいと思いますので、資料のナンバー等をお示しいただいて、御質問ください。どこからでも結構ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員

1点だけ。順調とか概ね順調ということで、これだけの施策、目標、数値目標が順調に進んでいるということは、今後、仕事を担っていく職員の方の努力があつてのことだと、大変有意義というか、すばらしいと考えております。

それで、よく話題に上がりますが、資料１－４の①－４「保育所の待機児童数」ということでお聞きしたいのですけれども、「やや遅れ」と示してありますが、右の「成果」の方では、30年度において348人もの定員拡充を図っているということで記載してございます。

これは、今までにない定員拡充だと私は思っておりますけれども、過去29年度とか28年度はどのぐらいの定員拡充を図ったということがおわかりになればお聞きしたいなと思います。

○座長

それでは、よろしくお願いいたします。

○こども部 次長

こども部でございます。平成29年度につきましては483人分の定員増ということで、30年度は、御指摘のとおり「348人」、31年度はまた来年になりますが「349人」、これは予定（見込み）でございますけれども、そういった定員を目指しております。

○座長

ほかにございますでしょうか。どうぞ、お願いします。

○委員

先ほど公共交通関係というか、資料１－４でいきますと、基本目標４の①－７「つくバス利用者数」ということで、公共交通機関の整備の評価をしておられるわけで、これを見ますと、バスの利用者数は順調に伸びていると書いてございます。これは人数が伸びているというのは、ニーズが非常に高いということだろうと思います。

問題は、「利用者の満足度がどうか」というところが重要なポイントだと思うのですが、その辺のお話を聞かせていただきたいのと同時に、将来のつくば市の公共交通の姿を考えますと、電気自動車を利用したバス等、それから、無

人化運転というところで充実を図るという方向づけが非常に必要ではないかと思いをします。

つくば市ですから、いろいろな研究機関があり、その成果の中で、「自動運転」とか、運行計画における「AIの活用」など、研究所での研究成果を市民の方々に広げる、利用していただくという意味でも非常に大きいところがあると思うのですが、そういう方向を追求するとすれば、現在、国土交通省を中心に各地で行っている自動運転のプロジェクトがございますけれども、こういうところに積極的に応募することによって、つくば市の公共交通の将来の整備に向けたプロジェクトの推進という計画を、是非ご検討いただきたいと思います。

○座長

ありがとうございました。二つの御質問になるかと思いをします。満足度と将来の公共交通の特にチャレンジについて担当課からお願いします。

○都市計画部 次長

つくバスの満足度につきましては、本日、お配りの資料の1－7の②－41を見ていただきたいと思います。ここでつくバスに満足している人の割合ということで、数字を出させていただいております。

つくバスにつきましては、毎年度、満足度調査というアンケート調査を行っておりまして、ここでつくバスに関する満足度を測っております。28年にバス路線を改正したりしていますので、その改正したときで、少し凸凹があるのですが、それについての数字を出しておりまして、平成30年度につきましては31年4月からまた新たな計画の中でつくバスを動かしていこうということで、改編作業を行いまして、4月1日から動かすわけですが、その関係もあり30年度は満足度調査を行っておりません。また、31年度に運行開始してからアンケート調査を行っていきたいと考えております。

自動運転等につきましては、庁内でも科学技術振興課といったところと連携を図り、国等の動き、国土交通省であるとか、あるいは経済産業省であるとか、そういったところの動きを見ながら、将来の導入に向けて検討を進めていき

たいと考えております。

○座長

ありがとうございます。ほかにございますか。どうぞ。

○委員

先ほど出たかと思うのですが、**「コミュニティバスの利用」**について。私も数字をちょっと忘れてしまったのですが、**県内44市町村の中でコミュニティバスを採用している自治体は、たしか25か26ぐらいあったか**と思います。その中でもうろおぼえなのですが、**台数、コミュニティバスとタクシーもそうなの**ですけれども、つくば市が県内で一番充実しているのではなかったのかなという気がしています。

ただ、コミュニティバスもどちらかと言えば、**周辺地域の支援事業ではある**のでしょうけれども、**抜本的な解決策にはなっていない**と思うのです。いつまでバスを、例えば、**将来10年20年コミュニティバスを走らせればいいのか**という問題ではなくて、その**周辺開発について抜本的な開発の案をお聞かせ**いただきたいというのが一つです。

もう一つは、つくば駅周辺地区の賑わい創出で、この資料1－7の②－27のつくば駅周辺を**「月1回から2回以上訪れる割合」**というのが**「やや遅れ」**気味と出ています。御案内のとおり、いろいろなお話があって、つくば駅周辺、まだまだ、これまでも今年度も来年度も財務省の物件が出てきますね。入札が出てきます。

そのときに、もっとまちづくりを考えていかないと、あの周辺は住居系だらけになってしまう。研究学園駅の方は商業がすごく発展しているのですが、つくば駅周辺は住居系が非常に多くなっています。これは多分、財務省の物件が入札で出た場合に、落とすところがそういった業者になっているのではないかと思います。その辺について、つくば市としてまちづくりをどういうふう考えているのか。この2点をお聞かせいただきたいと思います。

○座長

では、最初の質問について、担当部局よりお願いします。

○都市計画部 次長

先ほどの「バスを幾ら走らせても抜本的な解決にはならない」というのはおっしゃるとおりだと思います。「コンパクト＋（プラス）ネットワーク」という形で、ある程度機能は集約させながら、その拠点を結んで、ある程度利便性の高いところを調べて、多分、全てを便利なところにするというわけではないので、基本的に日常的に使うものは近く、集約できる機能に関しては中心部に置いて、それをバスとか、そういう公共交通網でケアしながら、全体的にまちづくりを考えていくという考え方が大事だと思っております。

特にもう一つ御質問いただきました国家公務員宿舎の売却という形で、中心部ではまだまだ国家公務員宿舎が今のところ、32年度まで計画されているというところがございますけれども、マンションの建設に関しては学校とか公共インフラへの負荷という形でも出てきますし、もう一つ、商業施設との兼ね合いから、土地利用をもう一回考えなくてはいけないだろうという考え方に立っております。

住宅制限などもその中で検討していかないといけないという形をとっておりまして、昨年、まちづくりビジョンということでちょっとふわっとしたものなのですが、どんな中心市街地のあり方が必要だろうということで、将来像とかまちづくりのコンセプト、こういう価値観を大事にしたいというビジョンを昨年の7月につくらせていただきました。

その後、絵に描いた餅にならないように、土地利用も含めて戦略と言いますか、土地利用のあり方と具体的に市の政策をどのように乗せていくのか、規制とかも含めて、そういったことを今、検討しているところでございますので、その中で市全体と市全体の中で中心部がどうあるべきか、中心部の国家公務員宿舎跡地に関して、このままマンションが立地してしまったときに、どうなるのかということもありますので、そういったことは検討させていただいております。

ただ、一応、景観とか地区計画では今のところ、単純に売却ではなくて、売却条件をつけて売却していただいています。ただ、住居系の用途には変わらないので、そういう場合は検討の中で地区計画の変更等を視野に入れて考えていく必要があるなというところがありまして、今、検討を進めているところでございます。

どちらかと言うと、「まち、ひと、しごと」の部分であれば、マンションというのは人口増加の一つの要因でもありますし、居住の受け入れという側面も持っておりますので、ただ、全体的なまちのバランスのところをどう考えていくかというところが大変重要だと思います。

○委員

すみません、もう一点いいですか。国際会議場などもありますね。つくばというのは、本当に茨城県内でも、ほかの自治体よりもいろいろな立派な施設を持っていると思うのです。国際会議場でいろいろな会議が開かれます。でも、つくばに泊まらずにTXで東京に帰ってしまうというお話をいろいろと聞きます。「なぜ東京に帰るのか」「なぜ泊まらないのか」ということの一つには、やはりつくば駅周辺にもっと歓楽街というか、飲食ができる設備が少ないというお話もよく聞きます。

ですから、先ほど言ったように、マンションだけではなく商業系がつくば駅周辺に固まっていかないと、国際会議場に来て会議をやってもそのままTXで帰って、東京泊まりの人がいるというお話も聞きますし、あの辺のつくば駅周辺のにぎわい創出がないのではないかなと思っています。その辺をぜひよろしく願いいたします。

○都市計画部 次長

ありがとうございます。特に市民の声でも商業施設という声も当然ありますし、せっかく世界から国際会議場に、つくばのまちに、いろいろな研究機関がありますので、その後の経済効果という意味でも大変もったいない部分もあるのかなと考えております。

あともう一つは、どうしても中心市街地に関してはどちらかというと、検討した中でも、地元事業者をもっと、つくばならではの商業とか楽しみをやっていけるということも視点に置いて、これから一生懸命頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

○座長

ありがとうございました。もう一つぐらい最後に、どうぞ。

○委員

茨城県全体で見たときには、つくば市は極めて転入人口が増えているということで、全県的に見ると、人口を維持しているということで大きな役割を果たしている、とすごく思います。

先ほどの資料でいきますと、資料１－５の①－６で若者の年間転出者数の増加をどうやって抑制していくのということがあります。そこで、どちらかと言うと、若い人たちに情報発信というところに重きを置いているように見受けられます。

そもそもで言うと、大学など外から来てつくばにいて、この地に来て、それで卒業していくわけですがけれども、「働きたいと思える職場・仕事がつくばにあるのか」ということが大きなことだと思います。そういう中で、「魅力の発信」と言っているわけですがけれども、これは一体、どういうことを指しているのだろうか。そもそも働く場所をもっと増やそうというふうに考えているのか、それとも、魅力の情報発信だけにとどまっているのかということを伺えますでしょうか。

○座長

非常に重要な御質問ですから、よろしくお願いいたします。

○市長公室 次長

まず、学生が転出してしまうというのは、これは単純に働く場所がないとい

うことだと思います。周辺の市町村に流失する人口もあるのですが、転入転出の差で見ると、茨城県内ではつくば市に転入する方が多くなっていますが、都内に出る方はほとんど都内に取られているという感じで、そこでのマイナスが影響しているというのが分析の結果でございます。

それを考えますと、やはり一番いいのは、市内に働く場所があるということが一番望ましいことではございますが、企業の数とか量、質、そのようなものを考えると、2,500人の学生さんということを考えますと、なかなか難しい面もあります。そこにつきましては若者定住支援事業を、平成28年から30年まで交付金事業でやっていまして、その合計としまして、更に若者地域定着化事業を31年度から計画しております。

これは市長公室の担当ではないのですが、就職支援、希望にかなう就職をなるべくしていただくための就活支援イベントと採用意欲向上セミナー、また、創業支援として安定した企業環境を創出するためのチャレンジショップや一般創業啓発イベントのようなものを来年度から実施することを考えてあります。

また、広報戦略課としましては、働くことも大事なのですが、定住または移住、そういうものを目指し、出産、子育て、教育、生活環境、医療、そういう一連の流れの中でつくば市がどれだけいいものを持っているかということアピールして、なるべくつくば市に来ていただくことを選んでいただくと、そういう形でシティプロモーションを行っていくということを考えております。

○委員

つくばと言えば、いろいろな産業、いろいろな技術の研究所が集積しているところであるのですが、働く場所としてもその関連の仕事場、職場がもしあるのであれば、かなり大きなつくばとしての魅力になると思うのですが、恐らくそういうイメージを持っている方も多いと思いますけれども、実際で言うと、起業はどうぞしてくださいと言われるかもしれないですが、働く場所がない。ここで働きたいのだけれども、働く場所がないということが、もしか

したら大きな理由なのではないかと思しますので、ここにいろいろと数値の目標値が書いてあるわけですが、この目標の数字に合わせるためにこの会があるわけではなくて、そもそも、「一体、どういうふうにしていけば若者の流出を防げるのか」ということが大きな目的だと思いますので、ここでの目標値と実績値が「やや遅れ」ということで、それが「順調」になればいいのかということでもないのではないかと思います。もう少し抜本的なことであってもいいかなと思います。

すみません、もう一つ関連で、T Xの利便性向上ということで、いろいろと取り組んでいる、これからもやっていくとありますが、もしもお尋ね願えるところで、具体的に今、こういうことをやっているとか、今後こういうふうにしてT Xの利便性を上げていくということを聞かせていただければ、伺えますでしょうか。

○座長

どなたか御説明できますか。では、お願いします。

○都市計画部 次長

T Xの利便性向上につきましては、市単独でもそうですし、県内3市あるいは沿線の11都市で、国あるいはT Xの会社、茨城県知事、要望等を行っております。内容としましては、一つは東京駅延伸、それと8両化、通学定期の引き下げ、そういったものについて要望活動を行っておりまして、今、目標としてはそういったものをできるだけ早く実現していきたいということで、活動を行っております。

○座長

ありがとうございました。最後に一つ。

○委員

資料1－6のⅢに居住環境の魅力を高めとありますね。1の（3）に快適な

居住環境の整備と書いてありますが、つくばのほうの中心部はもちろん上下水道が整って、いつでも人が入ってこられる準備はできているのですけれども、周辺部は下水ができて、上水がなくて、危険性を感じておるのですね。中には田舎に住みたいということで、ぽつぽつと田舎暮らしを好んで入ってくれる人もいますのですけれども、やはりそういう環境では水の心配もありますし、尻込みしてしまうという懸念もあります。

そういうことで、ここにはインフラのことは書いてありませんけれども、インフラのこともぜひテーマとして取り上げていただきたいと思います。

○座長

御要望ということだと思います。ありがとうございました。

膨大な資料ですので、まだまだ御質問等もあるかと思いますが、特に今後どうするのかという問題につきまして、この後、最後の来年度ということもございますけれども、更にそれにつなげて今、検討中の未来構想等にもうまくつながっていけるようにしていただくことが必要かと思います。それにつきましては、またこの後でも議題になっていますので、御意見をいただきたいと思います。

それでは、次の議題に進めさせていただきたいと思います。

（２）地方創生推進交付金事業の進捗状況について

○座長

それでは、次の議題に移りまして、地方創生推進交付金事業の進捗状況につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局 （資料２－１から２－２までの概要を説明）

○座長

ありがとうございました。それでは、資料２－１と２－２につきまして、今、説明がありました。では、事前に御質問等をいただいておりますので、先

ほどの机上配付の番号11と番号12につきまして、若者ライフプラン形成支援事業及び移住推進プロモーション事業について質問が出ておりますので、それぞれの担当部から簡単に御説明をお願いします。

よろしくお願いいたします。

○保健福祉部 次長

資料2-2の③-2を御覧いただきたいと思います。若者ライフプラン形成支援事業についてですが、こちらは若いうちから結婚、出産、子育てなど、ライフプランについて考えるための小冊子を市内の高校2年生に配布しまして、未婚、晩婚、晩産化の解消、出生率の向上につなげることを目的に実施するものでございます。

冊子を送付する際にアンケートを同封いたしまして、それを回収して翌年度の冊子作成の際の参考にしておるところなのですが、アンケートの回収率が低かったこともあり、高校生の結婚、出産、子育てに関する考えについて、十分に把握することができませんでした。先ほども申し上げましたが、毎年、冊子の内容を見直す際に、少数ではありますが、アンケートの意見を反映することができて、有効活用ができたものと考えております。

本事業の最終目的である出生率の向上につきましては、ある程度長いスパンをもって評価すべきものだと考えておりますので、現在においては正しい評価が難しいこともあるため、総合評価をDとさせていただきました。

事業の成果につきましては、ある程度の期間を待って、何らかの方法により本事業についての検証を行って、その後の施策に生かしていきたいと考えております。以上でございます。

○座長

唯一、Dという総合評価になっておりますが、今のような御説明がありました。もう一つ、それでは、市長公室から。

○市長公室 次長

12番目の御質問で、移住推進プロモーション事業についてでございます。資料は2－2、③－6のシートになります。

御質問の趣旨は2点ございまして、400万円増加している理由と、今年度のイベント内容と効果の測定という御質問の趣旨でございます。

まず増額につきましては、昨年度はこの事業として市内で農業体験ツアーとサイクリングツアーを2回実施いたしました。本年度はツアーを6回にふやすということを想定して、400万を増額したという経緯が当初ございます。

しかし、先ほども申し上げましたとおり、今年度、移住定住施策を広報戦略課に一元化しまして、それに伴い、この事業も一部見直しをさせていただき、具体的には昨年計画したツアー形式のイベントには限定的な人数の方にしかアプローチできないということ、また、ターゲット層として挙げた子育て世帯の転入者につきましては、個別施策のほうで資料1－7の②-36で年少人口の転入超過者数という数字が出ておりますけれども、そちらを見ていただければわかりますように、順調に増加しているということでございます。

それはTX沿線の開発が進んで、住宅や学校といった要因で順調に伸びていると考えております。ただ、今年度はそういった先ほど申したような、ツアー形式ということではなくて、多くの層の人を呼び込み、関係人口の創出を目的としたイベントとしまして、「つくばVAN泊」というイメージを新たに企画しました。

これは、3月21日と22日、2日間にかけて開催することとしたイベントでございます。このイベントでは、御質問にあったように効果を検証するために来場者の皆様からアンケートを徴収して、来場者の属性や生の声、御意見などを把握して、効果を検証したいと考えております。

また、このほかにも地元企業の主催の音楽イベントを共催で実施するなど、駅前のにぎわいづくりや新たな若い世代の交流人口の創出を図りました。以上でございます。

○座長

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御質問等をお受けしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。交付金全体として事業年度は何年度までとか、あるいは新しいものが加わったと先ほどありましたけれども、更に何年度とか、そういうことは教えていただけますでしょうか。

○事務局

資料２－１の真ん中に事業期間という項目がありまして、茨城県との広域連携事業につきましては５年間となっておりまして、つくば市単独で行う場合は３年間となっております。

○座長

わかりました。ありがとうございます。

ほかに御質問等はございますか。よろしいでしょうか。

一部を除いて、全体としては順調に進捗しているというところでございますが、それでは、後で御質問等がありましたら、そのときでも構いませんので、よろしいでしょうか。（異議なし）

ありがとうございます。

それでは、議題１と２で30年度の事業の進捗状況について御説明、御質問をいただきました。

（３）平成31年度の事業について

○座長

それでは、この後は議題（３）で最後の年度、31年度に実施する関連事業と議題の４番目、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局 （資料３、机上配布２の概要を説明）

○座長

31年度の地方創生推進交付金の活用等も含めて説明がありましたが、御意見とかあるいは御提案はございますか。

まち・ひと・しごと創生の5年としては最終年度になりますが、その次につながるような未来構想を先取る形での交付金の活用について、非常にチャレンジングな説明があったと思いますけれども、何か御意見等がございましたら、よろしくお願いいたします。どうぞ。

○委員

すみません、一点。この3ページのSDGsを通じた持続可能都市推進プロジェクトの中でちょっと教えていただきたいのですが、(2)の地域自主運営型学校跡地利活用のところでSDGs 17の目標のうち9、10、11が入っています。10番を入れた心を教えていただけますか。

ほかの体験型と地産地消のレストランのところは、4と11、7、8、9、12はすごくわかるのですが、真ん中のところは10番の「不平等をなくそう」というのは、何で入っているのですか。

○委員

地方創生で、周辺部との中心部と格差をなくそうという意味でしょうか。そういうふうに解釈すればどうでしょうか。

○委員

すみません、わかりました。ありがとうございます。

○座長

17の目標は非常に広い内容を含んでいると思いますが、我々がそういうふうに解釈してやるのだということでもいいのかもしれませんが、もしも何か後で追加がありましたら、後ほどでも結構ですが、一応、そういう理解でよろしいでしょうか。

ほかに御質問とか、あるいは御意見はございますか。どうぞ。

○委員

創業支援ということがよく言われていまして、それでまたチャレンジショップのお話などもあって、面白いななんていうふうにお聞きしていました。創業支援は「大学を卒業した若者向け」というようなイメージがあります。何か一つ、事業を起こすと言いますか、そういった経験というか、そういうことをしてみたいという感覚は、ひょっとしたら、もっと若いうちから芽生えがあって、そこにどんなふうにそれを育てていくかということは、すごく大事なのではないかと最近思うところがあります。

先ほどSTEAM教育などをつくばでこれから進めていくという話もあったのですが、地域の中で自分がいかに仕事と言いますか、そういうことで貢献しながら暮らしを立てていくかということについて、小中学校ぐらいから何となくそういう感覚を身につけられるような体験的なものがあるといいのかなということを最近はすごく感じております。

意見というか、そういうものになってしまうのですが、もっと若いうちから地域の中で子どもたちが本当に地域の人たちと交わっていくような、何か子どもを守られるだけ、支えられるだけの子どもではなくて、地域に貢献できる自分ということを何か育んでいけるような取組があると、また面白いのかなと思ひまして、意見を延べさせていただきました。

○座長

ありがとうございました。大変興味深い御意見ですが、何かそのような取組については回答できることはありますか。

○経済部 次長

高校生につきましては、スタートアップ推進監が主に学校のほうに出向きまして、そういった創業セミナーのような、起業マインドを起こすような形での学習会、講習会などを、今年度から各校で実施して回っております。来年度以降も、恐らく高校から中学という形で、段々と世代を広げて取り組んでいこうと思っております。若者の底上げでは、今のところそういった形で取り組んで

いるところです。

○座長

ありがとうございます。まだまだほかにも色々つくばならでき、という
気もします。ぜひよろしく願いいたします。ほかに御意見等、御提案等、ど
うぞ。

○委員

簡単に意見というか、お願いのようなものです。例えば体験型科学教育のと
ころには、4番の「質の良い教育をみんなに」というテーマがありますし、真
ん中の地域自主運営型というところでは、「人や国の不平等をなくそう」とい
う、とてもすてきなキーワードがあると思います。

そのときにぜひ心に留めておいていただきたいのは、障害のある方ことも少
し心に留めておいていただきたいと思います。「まち・ひと・しごと創生」で
、「しごと」の部分や教育の部分には、やはり多様な人々がおりますので、ぜ
ひつくばですから、その多様性に対応していただけるように、そのときに障害
のある方々も守られるだけではなくて、自立して生きていけるようなステップ
を小さいときから踏めるような流れをつくっていただければと思います。

○座長

ありがとうございました。どうぞ。

○委員

資料3の2ページの一番上のところですが、資料1で話題になったつ
くば駅中心部の再開発ですが、つくば駅周辺のにぎわい創出という四つの観点
のことがあります。これらの評価も含めてですが、評価するために先ほどの資
料1でのKPIは「月平均、市民が1回か2回ぐらい駅周辺に訪れる」となっ
ているのですが、果たして評価する上で、良い指数かどうか疑問を持っていま
す。

一つは、まず1回か2回ぐらいというのはかなり低い数字であります。また、駅周辺を訪ねる回数というのは、駅に行っただけの数も入っているのかどうか。駅だけではなくて、周辺にも訪れたか。また、このアンケートはつくば市民に対するアンケートだったので、市外から人を呼んで、中心街で遊んでいた人だけを数えていません。

私自身はつくば駅中心の再開発が本当につくば市としても重要な課題の一つだと思っているので、もう少し積極的に、どうやって再開発を成功していくかということを市に考えていただきたいと思います。

○座長

ありがとうございます。

○都市計画部 次長

おっしゃるとおり、今、まちづくりビジョンをつくって、その後に戦略を練り上げているのですが、もうちょっとストライクな数値目標を、「1、2回」というのは余りにもアバウトだということと、やはり市民意識調査については3,000人の方に無作為の抽出をして、1,300人ぐらいの回答があるという形の中での数値ということがありますので、もうちょっとアウトプットではなくて、アウトカムの何かとれる指標はないかということで、経済指標なども見ています。新たに指標をつくるとなると結構難しいところはあるのですが、今のところ、新しい計画づくりに向けて「指標をどうするか」ということも検討に入っていますので、これから総合戦略の見直しや、中心市街地の整理などもつくっていきますので、これも確かに市内の方だけの意見になってしまうので、今よりは、東京の方とかの反応が見られるような、動きが見えるような、成果の見えるような指標について工夫して検討していきたいと思います。

貴重な御意見をありがとうございます。

○座長

ありがとうございました。まだ御意見はあるかと思いますが、何かありますか。

○事務局

先ほどの委員からの御質問の正式な回答をお伝えてさせていただきます。改めて申請書の内容を確認しておりまして、先ほどのなぜ学校跡地利活用事業にSDGsのゴール10番が入っているのかでございますが、やはり周辺地域だけではなく、市全体の活性化を図ることで、人口の維持に寄与するという目的が入っております。

SDGsはなかなかゴールの名称だけだと、なぜ入っているのかわかりにくくて大変申し訳ないのですけれども、以上になります。

○座長

わかりました。まだ御質問、御意見等はあるかと思いますが、また後ほど直接事務局のほうにも御意見をいただければと思います。

進行が遅れまして、時間が押しておりますので、それでは、次の議題の方に進めさせていただきます。ありがとうございました。

（４）今後のスケジュールについて

○座長

議題（４）の31年度の今後の予定について、簡単によろしくお願いいたします。

○事務局 （資料４の概要を説明）

○座長

いよいよ５年の最後の年になるわけですが、「次へつなげるために」ということで御提案がありました。何か御質問はございますか。どうぞ。

○委員

次期の総合戦略について御意見だけ言わせていただければ、最初につくっても総花的になってしまうのではないかという懸念があったわけですが、その中でも確実に進められているというところと、ここまでつくば市の強みと

か弱みというのがこの指標を見て、おぼろげながら出てきているかと思います。例えば、産業競争力がほかに比べると強いのではないかと、そういったところを優先的にというか、はっきりするような、ほかの事業にも波及するようなことを検討していただければなというふうに思っております。

創業についてもつくば市で創業すれば、何か支援が受けられるとか、あとはそういったイメージですね。そういったものを戦力として掲げられると、それが就職、雇用とか、そういうところにつながるような、これだけではなくて次につながるような機会を考えていただければと思います。以上です。

○座長

ありがとうございます。ほかにも御意見はございますか。ぜひこの際、次につながるという意味で5年間をどうやってまとめたらいいかということについても含めて、御意見がありましたら。

よろしいでしょうか。

それでは、31年度は中間ですが、全体を含めて秋頃、2回ほどの会議を開催するという予定でございます。よろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

(5) その他

○座長

それでは、最後になりますが、その他事務局の方からよろしいでしょうか。

○事務局

それでは、どうもありがとうございました。

本日の会議につきましては、膨大な資料ということもありまして、お時間も限られているということで、御意見等を伺えなかった委員の皆様もいらっしゃると思いますが、毎回同様に、本日机上配付のほうで事後意見、質問表というものを御用意させていただきました。こちらは任意表記ですので、あくまでもご参考にこういった形でいただけると、我々も回答しやすいというイメージで

ございます。こちらを使っていただいても結構ですし、任意の形でも結構でございます。郵送、メール、ファックス、どの方法でも結構です。ちょうどできればと思います。

今後のスケジュールにつきましては、30年度のまち・ひと・しごとといたしましては、先ほど冒頭に申し上げたように、フォローアップの数値を確定させてまいります。31年度のほうに確定させてまいりまして、秋頃には確定となっております。また、その際にご連絡いたしますとともに、併せまして、できれば先ほどの夏、秋をめどに31年の中間評価を行うところで御提示できればと考えております。

3 閉会

○座長

ありがとうございました。それでは、一応、議題は以上で全て終了ということで閉会となります。本日はありがとうございました。

冒頭は大変失礼いたしました。御議論あるいは御意見が出ておりましたように、この間、大変それぞれで御努力いただいて、成果が上がっていると同時に問題点も非常にクリアーに見えてきているのかと思います。これがちょうど未来構想にもつながっていく課題として整理されていけば、この5年間の成果かと思っております。

それでは、またもう1、2回、31年度にはございますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

それでは、本日は以上となります。ご協力ありがとうございました。

○片野政策イノベーション次長

本日は長時間にわたり、大変ありがとうございました。また、多くの御意見をいただきまして、大変ありがとうございます。先ほど説明しましたように、来年度が最終年度となりますので、委員の皆様には引き続き、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、平成30年度のまち・ひと・しごと創生有識者会議を閉じたいと思います。大変ありがとうございました。